

市議会 あんな話・こんな話

話

話

第16話

「桜島一周の避難道路」

昭和30年10月13日、桜島南岳山頂が突然大音響とともに爆発し、島内では大きな被害が発生しました。当時、黒神―高免間には、ウサギ道^{ウサギ道}と言われる小道が一本あっただけで、最悪の事態が起きた場合、溶岩に取り囲まれた黒神・高免地区住民たちの避難は船に頼るしかない状況でした。

「無事に避難するには桜島を一周する道路が必要」との声が高まり、翌年6月5日、当時の西桜島村の村長、議長らが鹿児島市を訪れ、市側も市長、助役、正副議長などが出席し、避難道路促進期成同盟会を立ち上げます。そして、これをきっかけに、国へ道路建設のための起債獲得などを働きかけるとともに、熊本の自衛隊にも工事の応援を求めました。

こうした地元住民と行政が一体となった熱意と、溶岩を開削する難工事の末、32年8月には東桜島口から黒神を経て高免に至る11^{km}余りの道路が開通し、ついに桜島を一周する全長52^{km}の避難道路が実現したのでした。

その後、地元の要望に応え、35年には噴火予知を主目的とした京都大学防災研究所付属桜島火山観測所が設置されるなど、観測体制も充実していくこととなります。



桜島溶岩道路の記念碑除幕式